

市長との 対話 集会

11月 開催した対話集会

テーマ別対話集会 テーマ「財政状況と総合計画について
～安芸高田市の未来を語る～」

「2024年度決算の概要」と現在策定中の「第3次安芸高田市総合計画」について、基本的な考え方をお伝えし、意見を伺いました。

日時	会場	参加人数
11/14(金)	高宮田園パラッツォ	41人
11/18(火)	八千代文化施設フォルテ	24人
11/19(水)	美土里生涯学習センターまなび	24人
11/20(木)	向原生涯学習センターみらい	31人
11/21(金)	甲田文化センターミューズ	28人
11/22(土)	クリスタルアージュ	35人



市長説明の様子
YouTube
「広島県安芸高田市公式チャンネル」



対話集会の概要はこちら
市ホームページ

今回の対話集会で頂いたご意見と回答を一部紹介します

決算状況について

意見

2024年度決算は黒字(4億5,800万円)とのことだが、黒字となったお金は具体的にどこに使われるのか。

回答

基金へ積み立てするとともに、翌年度の会計へ繰越金として活用します。

歳入を増やす取り組み

意見

財政が厳しいということをよく聞か、行政として、お金を生み出す工夫が必要ではないか。

回答

ネーミングライツ導入(運動公園、ホールなど)や、ふるさと納税など、財源を増やす努力をしています。財政は行政運営の土台であり、一体的に運営していきます。

総合計画について

意見

総合計画の計画期間について、社会情勢が激しく変化の中で、20年という計画期間は長すぎるのではないか。

回答

普遍的な基本理念を定めるため20年という計画期間としています。具体的な事業は4年ごとの基本計画で見直し、市長の任期に合わせて柔軟に対応します。

今回の 対話集会を 終えて



今回の対話集会で市民の皆さまから頂いた声一つ一つが、市政運営においての土台になると考えています。市が抱える諸課題に対し、皆さまとの“つながり”をベースに解決策を見付けてまいります。この対話集会は、その“つながり”を作るための重要な機会です。これからも一緒に、市未来を創造していきたく思いますので引き続きご協力をお願いいたします。

☎秘書広報課 秘書広報係 ☎お太助フォン 42-5627

今日の

市長 コラム



箕牧智之さんの講演を拝聴して

こんにちは。市長の藤本悦志です。

先日、広島県原爆被害者団体協議会理事長の箕牧智之さんの講演を拝聴しました。箕牧さんが所属する日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)は、長年の被爆者運動が評価され、ノーベル平和賞を受賞した団体です。

箕牧さんは東京で生まれ、東京大空襲の後に広島へ疎開。3歳の時に爆心地から約3.6kmの場所で被爆されました。今回の講演では、原爆投下時の空が激しく光った記憶、ボロボロの衣服で人々が家の前を通り過ぎる光景など、幼少期に体験された恐ろしい記憶を証言されました。

「二度と同じ悲しみを繰り返してはならない」という切実な願いをご自身の被爆体験に基づき語られる言葉には重みがあり、平和とは何かをあらためて問い直す機会となるお話でした。証言を聞

くことのできる機会が失われつつある現状に触れ、「核のない世界」の実現に向け「決してあきらめない」と訴えられました。その言葉には、体験の記憶を後世に残してほしいという強い願いが込められており、私自身、受け継ぐ側の責任の大きさを改めて感じたところです。

講演の中では仏教に伝わる“くみようちょう共命鳥”の話を引き合いに出され、「核兵器を使えば、相手だけでなく使った者も共に滅びる」と語られました。自らの行為が自分に返ってくるという共命鳥の教えは、現代に生きる私たちに核兵器の危険性と愚かさを鮮烈に訴えるものでした。平和の継承を支える自治体としての役割の重さを改めて胸に刻み、世界恒久平和の実現に向けて、その責務を果たしていきたいと考えています。

思いを引き継ぐボタンタッチ “事業承継”



事業承継の
大切さを伝えたい！
地域おこし協力隊
岡本 康太郎

第6回 眠っていた道具に、“新しい価値”を

「廃業したら、この機械も材料も全部捨てるしかないかねえ」——そうこぼしたのは、地元で長年製造業を営んできた職人さんです。長い年月をかけて培った技術や、現場で使い込まれてきた道具や資材は、本来なら次の担い手にとって貴重な“財産”です。しかし現実には、廃業と同時に処分されてしまうケースが少なくありません。

けれども、本当にそれでいいのでしょうか。たとえば、古い製麺機を別の飲食店が活用したり、木工の端材をDIYや地域の学校で使ったりすることができれば、資源も技術も地域の中で生き続けます。

安芸高田市では今、こうした「人・機械・資材」を地域内で循環させる仕組みづくりを、まちづくり事業の一環として検討し始めています。使えるものを使い続け、技を途切れさせないための地域内循環のプラットフォーム。まだ構想段階ですが、これからの地域にとって大切な視点です。

安芸高田市商工会でも、廃業・承継に伴う資産整理やマッチングについて相談が可能です。市役所や地域おこし協力隊の私とも連携しながら、「捨てなくていい未来」を一緒に考えていきましょう。

☎商工観光課 商工係 ☎お太助フォン 47-4024